

第3次「北陸・東北路」トコトコ道中記

山形県・秋田県・青森県の旅《前編》

高鍋 学

京都から青森県津軽半島龍飛崎をめざす「北陸・東北路の旅」は、2年前に京都を発って滋賀・福井・石川・富山を経て新潟県まで進んだのを第1次とし、第2次の昨年は、新潟から山形県まで進んだ。

第3次の今年は、2020年10月27日～11月19日まで24日間をかけて、山形から秋田を経て最終目的地の龍飛崎まで476kmを歩き、足かけ3年にわたる「北陸・東北路」の旅を無事終えた。京都からの距離は1,240kmになる。今回の旅の特徴は、

①コロナ禍での旅だったこと。

青森県の公営宿泊施設で宿泊を断られ、泊まった宿の張り紙に「告　ま向いのお店『アップルの森』さん　県外からのお客様は入店できません」とあり、訪ねたかった観光施設が休館になったりしていた。

しかし助かることもあった。GoToトラベルキャンペーンが使える宿が、23泊中11軒あって宿泊費が35%安くなり、更に15%の地域共通クーポン券ももらえて旅の費用が安くついた。

②股関節痛をかかえていたこと。

股関節の痛みは巣ごもり中に酷くなり、整形外科を受診してリハビリを始めたが、治りきらないうちに出発をしたので痛み悩まされた。痛くて旅を止ようと思ったこともあったが、湿布薬と鎮痛剤（ロキソニン）のおかげで止めずにすんだ。

③気象変化が激しかったこと。

旅の前半で強い風雨を伴った寒波に2度遭った。逆に、後半は打って変わって暖かく穏やかな日が続き、津軽の人こんなことは稀だといっていた。もしまた寒波に遭っていたら雪で道が狭まり、龍飛崎まで行くことはできなかっただろう。ありがたいことではあったが、拍子抜けしないでもなかった。

④新しいスマホを使ったこと。

スマホはこれまで各種ガードのかかった初心者用（年寄用）を使っていたが、標準用に替えた。グーグル地図が使える、宿の予約などもスムーズになった。などだ。

その日に歩く区間・距離・宿を記入した日程表と、10万分の1の「ライトマップル」を切取ってA4にした地図が20枚と、スマホと脚とを頼りにして、いざ出発。



＊『一　歩き、～　飛行機、・・・ JR/バス』

①10月27日（火）晴　関西空港　～　仙台空港・・・山形県天童市　—　東根市　9km

関空からPeachで仙台空港へ向かう。運よく、大阪平野が一望でき、琵琶湖、雪を頂いた

御嶽山、蔵王などもよく見えた。仙台空港から天童までは、バスがコロナで運休していたため、JR を使った。

7 年前、今年と同じ時期、同じ日数で仙台から「おくのほそ道」を辿って平泉へ、そこから奥州街道を歩いて青森県下北半島大間崎まで歩いたことがある。そのとき大阪～仙台は夜行バスを使い、運賃は 8,000 円だった。今回 Peach の航空運賃は 7,430 円（スマホの操作ミスで 2 席とってしまい、合計すると 19,190 円にはなったが）。安くなってありがたいものの、なぜか素直に喜べない。

午後 2 時に山形県天童市から歩き始め、羽州街道を歩いて東根市をめざす。東根市に着いてみると、さくらんぼ東根駅の周辺の街は全てが真新しく、道路も歩道も広くて公園のようだ。北陸や東北地方は、いま都市再開発が盛んに行なわれており、山形県も山形市、天童市、そして東根市など、白紙から立ち上げたような広々とした街があちこちに出現している。富山市が「コンパクトシティ」を目指すまちづくりを推進しているように、人工減少が進む各地方都市では、従来とは違った発想のまちづくりが必要とされているのだろう。



<さくらんぼ東根駅前の大通り>

宿は「スーパーホテル山形・さくらんぼ東根駅前」朝食付き、GoTo 割引されて 4,870 円。スーパーホテルには何度か泊まったが、エレベーターが少なく、接客も物を扱うような悪い印象があった。しかし、ここは普通のビジネスホテルの接客をしていた。チェーン全体の経営方針を変えたのか、パイロット店なのかは分からない。

②10月28日(水) 晴 東根市 — 村山市 — 尾花沢市 21km

始めの計画では天童から日本海側へ西に進み、月山・湯殿山の南を通る「旧六十里越街道」を歩いて鶴岡市に向かう予定だったが、事前に現地のあさひ村に電話をして状況をきくと、街道は雪で閉鎖になりそうだし、熊の出没も多いというのでコースを変更した。

北へまっすぐ進んで尾花沢から新庄を目指す。国道 13 号に並行して延びる羽州（うしゅう）街道（県道 120 号）を歩く。羽州街道は出羽国（でわのくに、山形・秋田の別称）を歩いて青森県弘前市・青森市まで延びる旧街道の名。今回の旅の約 3 分の 2 は羽州街道を歩くことになる。

東根市はさくらんぼの生産日本一で、トップブランド「佐藤錦」発祥の地だそう。途中で立派な店構えの麩の専門店を何軒か見た。六田麩といってこれも名産だそう。

尾花沢に入るころ最上川の川沿いにでた。酒田の河口まで 88km と標識にある。最上川は静岡県富士川、熊本県球磨川と並ぶ日本三大急流のひとつだ。これから 4 日間はこの川に沿って歩くことになる。



<六田麩の専門店>

尾花沢の宿の前に清風邸跡の碑があり、松尾芭蕉がここに逗留し「涼しさを我宿にしまねる也」と「おくのほそ道」に記している、とあった。芭蕉は平泉のあと日本海側を旅しているので、この歩き旅もそれと重なる部分が多い。

宿は「ビジネス旅館おもたか」素泊り、4,600 円。工事関係や長期滞在者の宿。サービスと設備がよく、清潔で、品のよい大おかみと若おかみが切り盛りしていた。

③10月29日(木) 晴 尾花沢市 — 船形町 — 新庄市 21km

尾花沢は雪深い地方で、玄関が二階にある建物が多く、すでに雪囲いもされていた。新庄へは羽州街道と国道13号を一部通った。

途中何人か地元の人と話をした中に、畑で採れた枝付き落花生を「茹でて食べると美味しいから、もってけ」といってくれたおじさんがいた。もらったものの処分に困り、その先で枯れ枝を掃除しているお婆さんがいたので、事情を話して引き取ってもらった。大阪から来た、と言うと、実家が近くで菓子店をやっており、屋号が「大阪屋」なので、何かの縁だねと言って笑った。



宿は「とまれ屋旅館」夕朝付き、6,000 円。この内容で安い。2食とも立派な食事で美味しかった。フサフサした白髪のお婆あちゃんは91歳。厨房で元気に働いていた。

④10月30日(金) 雨 新庄市 — 戸沢村 — 戸沢村 JR 高屋駅 … JR 余目駅 24km

新庄からは、月山の北を最上川に沿って西へ向かい、酒田をめざす。

一日中小雨が降ったりやんだり。新庄の街から戸沢村を流れる最上川にでるまでの県道は、空いていて快適だった。昼食は、改札がなく自由に入出できる津谷駅(つや)のホームの待合室でとった。コンビニのミニおにぎり弁当を食べて最上川沿いの国道47号に入ると、太平洋側と日本海側を結ぶ主要道路なので交通量が多い。しかも歩道がない。川と紅葉の景色は素晴らしいのに、狭い路肩の端を脇目もふらずに歩いた。高屋駅に着く前に土砂降りにあってしまった。



＜最上川と遊覧船＞

芭蕉はこの村の本合海(もとあいかい)から船に乗って最上川を下ったという。「五月雨を集めて早し最上川」は、初め大石田(新庄市)でつくった「集めて涼し」を、ここの急流を体験したあと「集めて早し」に改作した、とあった。現在、ほぼ同じ場所を遊覧船が運航されている。

高屋駅周辺に宿はないので、JR 陸羽西線(りくうさいせん、愛称は奥の細道最上川ライン)を通過して余目駅(あまるめ)まで電車で行き、宿を取った。

宿は「余目ホテル」夕朝付き、6,600 円。創業百年になる老舗ビジネス旅館。食事はよく、安心して泊まれる宿だ。

⑤10月31日(土) 晴 余目駅 … 高屋駅 — 最上川の土手 — 庄内平野の農道 — 酒田市あきほ町 27km

JR で高屋駅に戻ってから、酒田に向けて歩き始めた。ぽかぽかと暖かく、絶好の歩き日和。土曜日なので国道は大型トラックが少ない。高屋駅から5~6km 行ってから、国道を離れて最上川の大きな土手を進んだ。車は通らず、きれいに舗装された広い土手道が何キロも続い

ている。

昼食は、河口から 19km ほどの土手に腰を下ろしてとった。鳥五目おにぎり 1 個、ハムチーズ入りパンとあんパンとを半分ずつ、飲物は余目ホテルで入れた鉄臭い水。北に雄大な鳥海山を望み、前は満々たる白砂清流の最上川、後ろは広大な庄内平野。数知れない白鳥が盛んに鳴いている。贅沢な昼食だ。

土手の道を離れ、遙か先が見えない一直線の農道に入った。同じような道が何本もあるので、スマホのナビがなければ迷子になっていたところだ。

農道をぬけ、再び最上川堤防に上がると広い道路になっている。今日は出発が遅かったので、酒田の街中に入る前で日没となった。最上川に架かる新両羽橋の手前で、夕闇の中を白鳥が編隊を何百と組み、河口付近をめざして飛んでいた。昼間、広大な田んぼに散っていた白鳥たちだ。数千羽はいただろう、壮観だった。

宿は「ホテルイン酒田」素泊り、GoTo 割引で 3,575 円。地元資本のホテル。スポーツの競技会でもあるようで、中学生の団体が多かった。

⑥11 月 1 日（日）晴 酒田市あきほ町 — 酒田駅前 5km

酒田駅に向かう途中、開店前のツルハドラッグの入り口前に 30 人ほどの人が並んでいた。聞くと、酒田市地域振興券の発売日とのことだった。

酒田では観光のため一日休みにして、観光案内所の無料レンタサイクルを借りて市内をまわった。

先ず最上川河口にある日和山にのぼり酒田港を一望する。江戸時代「北前船」の航路は、蝦夷から西廻りに日本海、瀬戸内海、熊野灘を廻って太平洋を航行し江戸にいたる航路。酒田は庄内平野の米を江戸に積み出す港であるとともに、北前船の重要な寄港地であった。淡路島出身の高田屋嘉兵衛もここに上り、持ち船の千五百石積み「辰悦丸」を眺めたことだろう。

土門拳記念館で「筑豊のこどもたち」を観たかったが、改修工事のため閉館していた。

「本間様には及びもないが せめてなりたや殿様に」の豪商本間家旧本邸を訪ねる。別邸では、昔の写真が飾ってあった。一枚帆の船が多数浮かぶ港や、収穫された稲束が鳥海山を背景に見渡す限り並ぶ風景や、米を納めにやってきた人々と荷車でごった返す蔵前や、腰を曲げ一俵を背負って運ぶ女たちの姿など、建物以上に興味深かった。建物は思ったより大き



<最上川土手>



<庄内平野、左は大豆畑>



<日和山から酒田港を望む>

くなく、堅実で社会事業に尽くした家柄がうかがえる。昼食は街中の大衆食堂でおかずの多い定食を注文。お腹が空いていたのだろう、思わず全部たべてしまい、あとからお腹が苦しくなった。

宿は「酒田ステーションホテル」素泊り、GoTo 割引で 3,700 円。工事関係の宿泊者が多かった。

⑦11月2日(月) 雨 酒田市 — 吹浦(ふくら) — 秋田県にかほ市象潟町 27km

酒田からは、秋田県の最北、能代まで 163km を日本海に沿ってまっすぐ北へ進む。

今日は朝から雨。午後は時々激しく降った。気温は高かったので途中でダウンを脱ぎ、カップも脱いだ。

酒田から海岸近くを国道 7 号が北へ向かってまっすぐ延びているが、それに並行している県道 353 号を通過して吹浦をめざす。周りは田んぼで、道沿いに所どころある集落で「土門」の表札や看板をみた。鳥海山に近づいているのに雨で全く姿が見えない。

吹浦に着いて三角サンドイッチの昼食を済ませ、小高い丘を越えるとドドドーンと凄い音がする。

暗い日本海の大波だった。ここから北は鳥海山の

裾野が海に落ち込んでいる地域なので、国道 7 号は海岸線にへばりついて延びている。ここからは先は国道の他に道はない。

午前中は小降りだった雨が、風も出てきて土砂降りになった。ズボンに雨カバーをつけ、朝に脱いだカップを着た。傘は強風で用をなさない。そのうち日が暮れた。芭蕉も象潟(きさかた)に向かう途中に通った三崎峠を越えて秋田県に入り、やっとの思いで宿についた。玄関に腰をおろすと、いつとき立ち上がれなかった。靴に新聞紙を詰める。

宿は「清水旅館」夕朝付き、GoTo 割引で 5,005 円。クーポン 1,000 円付き。客は私一人。海水浴客(小砂川海水浴場)が多いそうだが、今年はコロナで全くダメ。合宿やスポーツ関係の客もなかったという。3 代続く旅館というだけあってプライドがあり、小さな旅館ながら GoTo にも対応していた。気持ちの良い宿だった。

⑧11月3日(火祝) 晴→雨 象潟町(きさかた) 小砂川 — 象潟 — にかほ駅前 21km

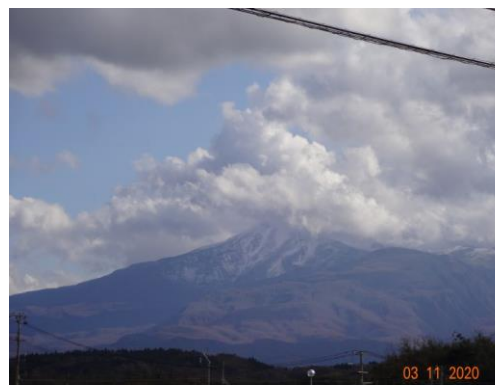
股関節が痛い。これまでも痛かったが、歩いているうちに痛みがいくぶん薄れていたのに今日は酷くなっている。今朝、旅館でもらった GoTo トラベル地方共通クーポン券を 1 枚(千円)を使い、ツルハドラッグで湿布薬を買った。

明日は天気が悪くなるということで、今日のうちに「にかほ」の先まで足を延ばすつもりだったが、股関節が痛くしんどくてやめた。

宿は「佐藤旅館」夕朝付き、7,700 円。世話焼きのおかみさん。駅前にあり工事関係や長期滞在者が多い宿。部屋にガスコンロが設置されていた。



<吹浦の海>



<象潟から観る鳥海山>

⑨11月4日(水) 荒天 にかほ市 — 由利本荘市 — 羽後亀田駅 … 岩谷駅 27km

予報どおり、朝から猛烈な突風とみぞれ。傘は役にたたない。由利本荘の街まで 13km は国道を離れて海岸線に行く。雨が降っているのに、猛烈な風で砂が目や口に入ってくる。簡易カッパの小さなフードを手で持って目をカバーしながら歩き、時々吹き飛ばされそうになった。

昼に由利本荘の街につき、昼食はいつものサンドイッチかおにぎりを買って道ばたで食べようと思ったが、雨で座るところがない。近くにあった「すき家」に入って牛丼を注文し、あと歩けなくなるといけないので半分残した。

食べ終わって立とうとしたところ、朝から痛い股関節がいっそう酷くなって立つこともできない。万事休す。が、妻にいわれて持ってきた鎮痛剤(ロキソニン)を思いだして一錠飲んでみると、15 分もしないうちに魔法のように痛みが消えてしまった。このあと国道(羽州浜街道)の 14km は、びっこもひかずスタスタ歩けた。以後は毎朝飲むようにした。

目的地の亀田駅周辺に宿はなく、羽越本線で岩谷駅まで戻って宿に入った。

宿は「はーとぽーと大内ぼぼろっこ」夕朝食、GoTo 割引で 7,700 円。由利本荘市の第三セクターが経営する温泉施設で、宿泊もできる。温泉は地元の人で賑わっていた。

⑩11月5日(木) 晴 岩谷駅 … 亀田駅 — 岩城港 — 秋田駅前 30km

朝は一時しぐれたが、その後は好天に恵まれた。北へ一直線に延びている国道 7 号の「道の駅岩城」で休憩。ここにある漁港は岸から離れた海の中にあり、栈橋で岸とつながっている珍しい形だ。

国道は途中から新しい道ができていたので、その道に行くことにした。元の国道は海岸線に沿ってあるが、新しい道は高台を走っており、車道も歩道も広い。北陸・東北路の新しい道路は、この広い規格のものが多かった。

秋田県に入って、海沿いや山の上に風力発電の風車を多く見てきた。調べてみると、風車の数は、1 位北海道 304 基、青森県 253 基、秋田県 210 基。

発電量(kW)は、1 位青森県 417,463、2 位秋田県 370,934、3 位北海道 358,745、とあった(2018 年 3 月現在)。日本全体ではもっとあった方がよいし、造れると思った。

今日は 10 時間 20 分歩いて秋田駅に到着。夕食は吉野屋の牛丼(並)お新香・豚汁セット。夕食なので残さず食べた。

宿は「東横イン秋田駅東口」朝食付き。宿泊料は貯まった 10 ポイントを使ったので無料。1 泊 1 ポイント。6 年ほどかかったのではないかと思う。



<防風林に入って一息>



<にかほ市 海岸沿いの道>



⑪11月6日（金）曇 秋田駅・・・土崎駅 — 秋田市内 6km

秋田市内で観光をしようと一日休みにしたが、明日 30km の距離を少し縮めておこうと思い、朝、秋田駅から一駅先の土崎駅まで電車で行き、そこから歩いて市内に戻った。

ところが、たった 6km がしんどかった。朝食を食べ過ぎたからだろうか。昼食の稲庭うどんも、午後は歩かないと思うと気が緩んで残さずに食べてしまった。当然そのあとは苦しく、見学はすぐそばにある秋田県立美術館だけにした。常設の藤田嗣治の絵は、秋田の資産家、美術蒐集家で藤田のパトロンであった平野政吉の蒐集によるもの。365×2050cm の大壁画「秋田の行事」に圧倒され、「北平の力士」「街芸人」などを観て藤田がいっぺんで好きになった。

宿は「アルバートホテル秋田」素泊り、GoTo 割引で 3,861 円。チェックインは 3 時だが、ロビーで待っていると 2 時に入室させてくれた。夕食はコンビニで買った三角サンドイッチ 1 つにした。



<「秋田の行事」・ネットより>

【後編につづく】